

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291400014		
法人名	宮利法人 矢崎総業株式会社		
事業所名	ヤザキケアセンター 紙ふうせん		
所在地	静岡県裾野市御宿1500		
自己評価作成日	平成22年01月28日	評価結果市町村受理日	平成22年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成22年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>広い敷地を利用した散歩や庭いじり・畑作業など屋外での活動に加え、もの作りなどの創作活動をつうじて、利用者1人ひとりのできる範囲を広げられるよう工夫している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは裾野市郊外の矢崎自治区内にあり、良質な治安と自然環境に恵まれている。また建物は耐震構造にてスプリンクラーも完備されており、プライバシーに配慮した広い共有空間を有している。職員の配置も厚く、利用者の個性や尊厳を大切にしたサービスの提供に努めている。またホームは同業グループの規範として研修や情報の発信の場としても機能しており、職員の意識も高い。日当たりの良い居間や居室で自分らしく過ごす利用者の姿が確認出来た。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方から必要とされる事業所であり続けることを施設全体の理念とし、管理者・職員共有している。 地域密着型独自の理念は設けていない。	職員はホームの理念を毎朝復唱している。また法人の倫理規定がホームの入り口に掲示されており、職員の業務規範となっている。カンファレンスでは日々の業務目標も検討されていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	社宅を中心とした特殊な地域であり、その中での日常的な交流はあるが、他の地域との交流はなかなか難しい。	矢崎自治区に加入し、清掃活動等にも出来る範囲で参加している。区および市の行事や祭事にも参加しており、地域のボランティアや保育園からの訪問も積極的に受入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域中学校の職場見学・職場体験学習の場として、当グループホームを提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期(2か月に1度)に開催し、利用者家族・区長・民生委員・行政代表等との話し合いを行い、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は年間計画に基づき、的確に実施されており記録も確認出来た。会議の内容は迅速に職員に伝達されている。また法人の部門長会議等にて良く検討され、サービスの質の向上に活かすよう配慮されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	更新認定、新規入居等の際に連絡を取り合っている。日常的に連絡を取り合うことは少ないが、問題が発生する前に報告・相談するように務めている。	管理者は利用者の介護保険の申請や更新申請の代行を実施しており、市の担当者との関係は良好である。また電話やFAXを活用し、相談や報告等に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいるが、鍵をかけないことで想定される事故を防ぐために、施設出入口は施錠している。	ホームの方針として身体拘束廃止に向けた努力を重ねている。研修や教育的確で職員の意識も高いが、プライバシーに配慮した構造上の死角が多いため、階段の転落事故防止等の観点から出入口は施錠している。	出入口の施錠は利用者のみならず、ホームを訪問する全ての人に対するストレスとなる。事故防止を踏まえながらも、施錠しない体制作りが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時に入居者の身体観察に力を入れ、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	H18.11月、裾野市・NPO法人とともに、「成年後見制度ビデオ上映会」を開催し、職員のみならず地域からの参加を受け入れた。その後は2名の職員がH21.5月・6月に「認知症高齢者支援講座」を受講し、制度理解を進めた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては各家族と面談を行い、十分に説明し、ご理解・ご納得いただくように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族が気軽に職員に話しかけられるよう、顔写真を使いスタッフ紹介を始めた。意見箱の設置・アンケートの実施も行った。それらの結果を部門長会議で検討するなど運営に反映させる仕組みを講じている。	ホームでは数多くの行事、祭事があり、家族等の参加を呼びかけている。また職員は利用者や家族が気軽に意見や要望を表明しやすい雰囲気大切にしている。家族会を発足させる計画もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の部門長会議およびカンファレンスにおいて職員からの意見を聞き、運営に反映させている。	毎月のカンファレンスにて職員の意見を聞く機会を設けている。また管理者が職員の相談役として良く機能しており、職員の意見を部門長会議等へ上げ、サービスの質の向上に活かすよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事の取り組みについて目標を設定し、昇給時に評価を行い給与の見直しを行っている。資格取得についても給与に反映し、向上心が持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	静岡県社会福祉人材センター等の外部研修に積極的に受講させると同時に、必要に応じた内部研修機会を設けている。認知症介護実践者研修に毎年1名を参加させると共に、介護福祉士資格取得を奨励し、給与に反映させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不定期ではあるが、市内他事業者の運営推進会議に相互参加している。行事にも招き交流を通じて情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	言葉で訴えるより他にも要望していることがあると思われるので、様子観察を行い職員との信頼関係作りを行っている。入居前の体験利用を進めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階では計画作成担当者が何度か家族と話し合いを行い、より良い関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者が本人と家族からの要望を受け止め、専門的見地から本当に必要なサービスは何なのかを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の出来ることを探し、スタッフと協力して暮らしていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の支えが必要であることを説明し、頻繁に来所・外出等の協力を仰いでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等をいつでも受け入れ、これまでの人間関係が継続できるよう努めている。	ホームでは利用者の関係者がいつでも面会出来るよう配慮している。また喫茶外出やドライブの折には、利用者の馴染みの地域を訪問する等、地域との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事のかたづけ・洗濯物干しからたたむまで、レクリエーションでも、できないこと利用者同士がスムーズにかかわり合えるよう、スタッフはサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了した方とは、以後連絡等をとることはしていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望が伺える場合は伺い、困難な場合は本人の非言語の訴えをスタッフ全員で考え検討している。	ホーム独自のアセスメント票を使用して、利用者の生活スタイルや過去歴を良く把握している。また職員は日常のコミュニケーションから利用者の意向や希望を把握するよう配慮している。カンファレンス記録も的確であった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らしについて、家族に記入していただくシートを作り活用している。本人に伺える場合は、本人に伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の担当職員を決めるとともに、毎日の過ごし方、心身状態を観察・記録しカンファレンスを通して総合的に把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ同士は、月に一度のカンファレンスにて利用者の現状を把握し、アイデアを出している。本人からも随時要望を伺うように努めている。	介護計画は3ヶ月毎に更新されており、家族等への説明状況や署名も確認出来た。また緊急時にはカンファレンスを開催し計画を更新することで、常に現状に即した計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録・申し送りノートに記載し、職員は常に記録に目を通し、情報を共有し介護実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化している利用者の様子について情報を共有し、それに即したサービスを考えている。1階通所介護の創作活動や行事にも参加・交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受入を積極的に進めているが、まだまだ不十分と認識している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のこれまでのかかりつけ医を継続し、定期に受診・往診を受けている。日常生活の状況や健康状態など施設での情報を提供しつつ、留意事項を確認し適切な医療が受けられるよう努めている。	利用者全員が入所前の医師をかかりつけ医としている。24時間医療観察必要な利用者が居るが、2名の看護師が配置され、常時連携を図っている。提携医の月2回の往診があり、適切な支援を受けられる体制にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護職を配置し、介護職と協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、看護職員が病院関係者との情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については、死生観を含めて職員同士で方針を検討している。	死生観を含めて重大な問題であり、本人・家族・医師等関係者と連携し、慎重に対処しようとしている。ターミナルについては、指針・マニュアル・同意書等の検討を始めている。	ターミナルについてはじっくり検討し、いざと言う時のために職員が共有化できる成案を得ることが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	裾野市消防本部による普通救命講習を随時職員が受けている。 急変時の対応マニュアルがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期の火災避難訓練・防災の日の総合防災訓練を実施しているが、夜間の体制が十分とは認識していない。	施設の定期の避難訓練を実施し、近隣の防災訓練にも参加し、職員の救急研修も行われているが、訓練への近隣の参加は見られなかった。	特に夜間時の対応が大切であり、運営推進会議等で、近隣住民の訓練への参加要請や具体的な連携づくりが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の意思を尊重し、また人生の先輩として敬意をもって支援を行うよう努めている。言葉遣いについても十分に注意し、記録に使う用語についても差別につながるものは使用していない。	利用者の尊厳やプライバシーを尊重し、名前の呼び方やトイレ誘導の言葉かけ等に細心の注意を払っている。記録も差別用語・イニシャル等を使わないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いに十分耳を傾け自己決定を促すよう働きかけている。難しい場合には選択肢の中から選んでもらい納得していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事・入浴・就寝などの大まかな日課以外は、入居者一人ひとりの意向とペースを尊重し自由に過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服を選んでいただいているが、季節を考えて職員が手伝えることもある。地域内の理髪店・美容院を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	不十分と認識している。食事レクリエーションとして料理作りなどを行うことはあるが、通常の食事準備は職員が行っている。一緒に食事を取るが、片付けを手伝ってくださる方は若干いらっしゃるだけである。	1Fのデイサービスと共に、日曜日以外配食を利用しているが、職員も同じものを食べ、喫食支援をしながら食卓での会話を盛り上げている。食後はできる人には片付けを、多くは広いリビングで思い思いに寛いでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は各入居者毎調整している。水分摂取量を把握し、不足しないよう気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、欠かさず口腔ケアを実施している。義歯は、夜間預かっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	これはでの記録から排泄パターンを把握し、定時誘導等、一人ひとりに応じた声掛けを行っている。	介護記録から一人ひとりの排泄パターンを把握し、観察しながらそれとなくその人に相応しい声掛けをしてトイレ誘導を行い、排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	給食会議においてメニューを検討し、水分補給に努めると同時に、一人ひとりに応じて体を動かすように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日以外は、希望があれば入浴できるようにしている。夕食後の入浴も行っている。	原則日曜日を除く13～21時を入浴時間としているが、希望があれば時間に関係なく対応している。最初は苦勞したが、言葉掛け等を工夫し、今では8～9名の利用者が毎日入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床から食事・就寝までの大きな一日のリズムの範囲で、その時々状況・一人ひとりの状態に応じて休憩・睡眠を取っていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の一覧表を、職員が常に見ることができるようにしている。看護師が中心になり症状変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事・手芸・カラオケ等、各自のいろいろな楽しみごとに対しての支援を行っている。事業所内にビオトープや花壇・畑などを設けて気晴らしができるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望を踏まえながら、出来る限り外出できるように努力しているが、不十分と認識している。	矢崎団地と言う環境に恵まれており、午前中を散歩の時間に当てている。域内のビオトープ見学・保育園児との対話や近隣のスーパーでの買物、季節ごとの行事やドライブ等で支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできない利用者がほとんどである。外出の際には、出来る方にはご自分でお金が使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて電話をかけることができる。手紙のやり取りも自由に行える。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースの天井は高く、採光が取れるよう窓は大きく取っている。富士山を望み、敷地内の桜並木やイチヨウの木をながめ季節を感じることが出来る。居室・フロアとも床暖房を設備し、間接照明や高さの違うイスを用意し、心地よく過ごせる様工夫している。	バリアフリーは勿論のこと床暖房・スプリンクラー等も設置され、全ての環境が高齢者用に設計されている。音・光・安全等についても万全であり、中庭も素敵である。利用者が自然に集う、居心地の良い共用空間となっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は何箇所もあり、廊下に設置してある畳敷きのベンチや和室など、それぞれ気に入った場所で過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力により、使い慣れた家具を持ってきていただいている。仏壇を置けるスペースも取り、床暖房と合わせて居心地よく過ごせるよう配慮している。	居室は家族の協力により、使い慣れた調度や懐かしい家族の写真・色紙・花・趣味の塗り絵等に囲まれ、一人ひとりが居心地良く過ごせる雰囲気である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が、迷わず居室に戻ったりトイレを利用できるよう貼り紙をするなど工夫し、混乱や失敗には根気よく付き合い、自立できる範囲を広げられるよう努めている。		